

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

**家畜伝染病防疫対策で
連携強化**

(埼玉県本部)

3面

**国産農畜産物の
適正価格への理解醸成**

(山形県本部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

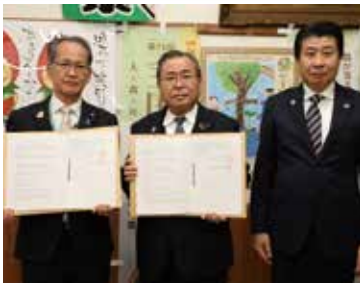
News!



家畜伝染病防疫対策で連携強化

埼玉県とJAグループさいたまが基本協定を締結

埼玉県本部



締結式に出席した(左から)横塚農林部長、坂本会長、戸田副本部長

近年、国内で豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝染病の発生が続いており、高病原性鳥インフルエンザは県内でも2022年度4事例、23年度1事例、今年度も既に1事例が確認されています。

実現するために、各JAと県内の家畜保健衛生所の連携強化を図ります。県本部の役割としては特に、緊急時における県の依頼に基づく対象地域のJAへの連絡など迅速で円滑な対応が求められます。



家畜伝染病発生時に対応した防疫対策演習

伝染病による畜産業への被害を最小限に抑えるための迅速・円滑な防疫対策を目的して締結した同協定では、緊急対策業務に必要な物資の優先確保、消毒ポイントとしての施設の提供を

埼玉県本部を含むJAグループさいたまは12月19日、埼玉県と「口蹄疫等家畜伝染病発生時における緊急対策に関する基本協定」を締結しました。家畜伝染病発生時に、物資の確保や消毒ポイントとしての施設の提供など、迅速・円滑な防疫対策を連携して行うことを目指します。

News!



ブルボン×ニッポンエール 第3弾新発売

「フェットチーネグミ」と長野県産「ぶどう三姉妹[®]」コラボ

営業開発部・長野県本部



フェットチーネグミPREMIUM
長野県産ぶどう三姉妹[®]味

ブルボン×ニッポンエール「フェットチーネグミPREMIUM長野県産ぶどう三姉妹[®]味」は、ブドウ3種の果汁を使用したPREMIUM仕様となっています。「フェットチーネグミ」の特徴である弾むかみ心地とともに、長野県産ブドウのみずみずしい味わいとジューシーな甘みを楽しめます。

「ぶどう三姉妹[®]」は、長野県で人気の「甘い・種無し・皮ごと食べられる」が特徴の「ナガノパープル」、「グイーンルーージュ[®]」（長野県の登録商標）、「シャインマスカット」の総称で全農の登録商標です。全農とブルボンは、今後の特徴ある国産果実を使用した商品開発を進めていきます。

全農は、(株)ブルボンと連携し、「フェットチーネグミPREMIUM長野県産ぶどう三姉妹[®]味」を共同開発しました。1月28日から全国のコンビニエンスストア・量販店などで期間限定発売します。



国産農畜産物の適正価格への理解醸成

地元紙への意見広告掲出などで告知

山形県本部

山形新聞に掲載した意見広告
2種類



山形駅2階改札口付近に設置したタペストリー(縦4・5段、横3段)は、文化と伝統としても重要な農業を維持継続するため、「今日のあたりまえが、未来へもつながるように。」のメッセージを掲げ、消費者の理解醸成を図るもので、山形新聞へ掲載した広告と同じデザインです。

山形県本部は、昨年12月から今年の1月にかけて農畜産物の適正な価格形成への理解を促すため、地元紙へ2種類の意見広告を計6回(うち3回は見開き全面広告)掲出するとともに、JR山形駅に大型タペストリーを設置しました。

JR山形駅に設置した大型タペストリー



旅行者や通勤通学の利用者が多い山形駅に掲出することで、多くの消費者に農業の現状を周知し、農畜産物の適正価格について考えてもらうきっかけを作り、生産者を応援します。

山形県本部では2023年から「適正価格にご理解を。食べて笑顔!作って笑顔!」をキャッチフレーズに、山形花笠まつりのパレードなどで、農畜産物の適正価格の重要性をアピールしてきました。今後も適正価格への理解醸成に積極的に取り組みます。



JA晴れの国岡山と焼き肉店コラボ

テーマは「冬はお肉で乾杯」、2店舗で使えるクーポン配布

岡山県本部

クーポン配布で焼き肉店への来店と牛肉消費拡大を狙う



近年、物価高の影響で牛肉の需要が低迷し、畜産経営は厳しさを増しています。そこで、畜産農家を応援する取り組みとして、キャンペーン期間中、JAの公式LINEで両店舗で使用できる「夜のドリンク1杯無料クーポン」を配布しています。公式LINEでは他にも、県産和牛のプレゼント企画や、JAタウンで販売する肉

岡山県本部は、JA晴れの国岡山と連携し、畜産農家の応援を目的としたLINE活用施策に取り組んでいます。JAの公式LINEを通じて、全農が運営する「和牛焼肉岡山そだち」と、JAが運営する「焼肉千屋牛」の両店舗で使えるクーポンを配布し、来店促進を図ります。

JA晴れの国岡山の公式LINEはこちら

のPRも実施しており、国産牛肉の消費拡大に取り組んでいます。

「和牛焼肉 岡山そだち」は、昨年10月に岡山駅前にオープンした全農が運営する焼き肉店で、「焼肉 千屋牛」はJAが運営し、新見市を中心に岡山県内で繁殖肥育一貫生産されたブランド牛「千屋牛」を楽しむことができる焼き肉店です。

岡山県本部は、この取り組みをきっかけに、両店舗への顧客呼び込み、岡山県産和牛の認知拡大と消費拡大を目指します。

地域の課題を資源に変える「3-R」

耕畜産消 みんな地域の仲間

広島県本部が持続可能な農業と地域の環境保全を目指して立ちあげた耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」(さん・あーる)。「3-R」とは、「耕畜連携」によりつくられた農畜産物や加工品のブランドで、三つのRは「資源(RESOURCE)」「再利用(RECYCLING)」「繰り返し(REPEAT)」を表しています。3-Rブランドには、野菜、米、肉、卵やその加工品などが認定されています。その中でも、地域の暮らしを守るために始まった「広島こめたまご」発祥の地、広島県世羅町を小谷あゆみさんが訪ねました。

こめたまごで地域の水田を守る

広島県のほぼ中央部、標高350〜450mの世羅台地に位置する世羅町。高原の気候から果樹栽培が盛んで6次産業化の進んでいる地域ですが、水田地帯は、減反政策により、耕作放棄地が増え続けていました。

「このままいくと、中山間の特に山の際にある土地は、間違



広島たまごの松本社長(世羅町)

いなく荒れてくるじやろうと。なんとか水田は水田のまままで使えんじやろうかという発想から始めたのが飼料用米だった」

と語るのは、養鶏場を営む松本義治さん。

約53万羽の鶏を飼養する「広島たまご(株)」の社長です。まだ補助金もない2008(平成20)年ごろ、水田を維持するために、仲間に呼びかけて、飼料用米の生産に乗り出したのです。

水田×養鶏 双方の課題をプラスに

この取り組みをさらに拡大したのが広島県本部です。広



ロゴマーク

島たまごでは、08年から配合飼料への飼料用米の混合を開始し、10年にはこめたまごを商品化。23年では県全体で約2000トに生産が拡大しています。

広島県の採卵鶏の飼養羽数は全国5位。年間約40万トの鶏ふんが発生しています。鶏ふん堆肥を施用して飼料用米を生産し、資源を循環させる「耕畜連携」は、環境、経済、地域を守る施策でもあったのです。広島県本部では、22年から広島大学と共同で、主食用米の水田にも鶏ふん堆肥を利用する研究をしています。

北広島町の農事組合法人上川東では、水田20haのうち5haで飼料用米を生産しています。代表の鉄穴口隆弘さんによると、10a当たりの鶏ふん堆肥は



農ジャーナリスト・フリーアナウンサー 小谷あゆみさん

石川テレビ放送のアナウンサーを経て現在はフリー。野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として家庭菜園歴は25年。都市でも農に親しむ市民、消費者が増えれば、農業・農村への理解が深まり、価値向上につながると考え、取材、執筆、メディアやSNSなどでも活動を行う。また、農ジャーナリストとして、都市農村交流や、生産と消費のフェアな関係をテーマに全国で取材、講演、シンポジウムでの司会やコーディネーターなどを行う。日本農業新聞ほかでコラム連載中。農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員なども務める。

800キと、手間はかかりますが肥料コストは大幅に低減でき、飼料用米の作付けを年々増やしています。

耕畜のマッチングは組織改革から

3-Rブランドとして、生産から販売まで一貫して進めるには、生産者と消費者の両方



広島県本部 改革推進部 改革推進課 狩谷伸午課長



背が高く、株も太い飼料用米の田んぼで農事組合法人上川東代表の鉄穴口隆弘さんと小谷さん(北広島町)

の理解が必要です。

鶏ふん堆肥では確かにコストは削減されますが、例えると「化学肥料だと40^{キロ}で済むものが、鶏ふん堆肥だと200^{キロ}まかなければいけない」そうです。散布にかける手間が5倍になることを考えると、はじめは農家にも抵抗感がありました。

そこで、広島県本部の改革推進部改革推進課の狩谷伸午課長は、組織内の「連携」に取り組みました。

「これまでは米穀の部門と鶏卵の部門が、部門ごとに縦割り業務を行っていました。飼料用米を作るよう生産者に提案してもらったために、米穀部門にも協力を仰ぎました。そのため『橋渡し役』を当課で担うことにしたのです」

消費者との交流で 3-Rの価値を伝える

同時に狩谷課長たちが取り組んだのは、消費者への理解と啓発です。

「地元産の連携に『価値』を感じてもらおうことから始まり

ました。耕畜連携とか循環型の農業で生産された卵や野菜、お米が価値にならないかなど。それをブランド化しようということ。お米(おーまい)ポーク、こめたまご、循環野菜などを3-R商品として認定しました。生協や直売所での販売に加えて、田植え体験会、稲刈り体験会、キュウリの苗植え体験会なども開催しています」



え、理解を広げています」
松本社長は学習会や体験会を通して、「この卵を買うことで農地を守っているんだという意識を持つていただけるようになりまし。買っていただけの人がおらんかったら、成り立たんわけです。だから理解は重要」と話します。



3-Rの循環の輪と楽しさがあふれる手描きのポップ

(上) コープ東広島店の3-Rコーナーと小谷さん
(下) 広島県本部の直売所「とれたて元気市」(東広島市)

ファンは定着しつつあります。
課題×課題を資源に。地域の魅力を未来に伝えるために

広島県本部が、「3-R」を立ち上げた背景としては、大きく三つの課題がありました。
① 耕作放棄地の増加 ② 肥料原料や飼料を輸入に依存する脆弱さ ③ 畜産堆肥の活用策です。

経済優先でできたこれまでは、これらを別々の課題とみなしてきましたが、広島県本部では、3-Rの連携を通して、耕種農家も畜産農家も消費者も、みんな同じ広島に住む仲間として「包摂」し、地域の魅力を未来に伝えるコミュニティーを築いているように思えます。地元資源を介して仲間を増やすことは、「誰も取り残さない」サステナブルな笑顔の輪です。

今回の取材の様子をまとめた動画はこちら





副賞を贈呈した安田忠孝代表理事専務(左)と優勝チーム



JA全農チビリンピック2024

全農杯全日本小学生カーリング選手権大会に特別協賛

日本一は初出場「札幌CA」

「日刊スポーツ」の
YouTube
チャンネルで配信



全農は、12月22日に横浜銀行アイスアリーナ(神奈川県横浜市)で開催された「JA全農チビリンピック2024 第6回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会」に特別協賛し、出場選手を「ニッポンの食」で応援しました。
【広報・調査部】

ゲストコーチが デモンストレーション

試合開始前には、大会にゲストコーチとして参加した、山口剛史選手(SC軽井沢クラブ)、近江谷杏菜選手(フォルティウス)、小谷優奈選手(同)らトップ選手によるデモンストレーションが行われました。洗練された投球に、間近で見ている子どもたちももちろん、保護者からも大きな拍手が沸き上がりました。

大会の様子は YouTubeで配信

決勝は札幌CAとチーム青



ゲストによるデモンストレーション

森キッズが対戦。ゲストコーチが見守る中、白熱した試合展開の末、3-2で札幌CAが初出場、初優勝を飾りました。なお、決勝戦の様子はYouTubeでアーカイブ配信しています。

もぐもぐブースで 栄養補給

今年も試合前後での栄養補給用に、「もぐもぐブース」を設置。ニッポンエール商品や農協シリーズをはじめ、旬を迎えた「日の丸みかん」や本会が原料供給している「赤飯おこわ」、「豆腐スイーツバーガトーションコラ」や各種飲料などを提供しました。

大会前日に開催した「スポーツ栄養教室」で教わった通り、子どもたちは補給する栄養素を考えながら商品を選んでいました。また、ブースの一角に設置した、子どもたちが夢や目標をカードに書いて飾れ



(上) 「もぐもぐブース」で食材を手にするゲストや選手たち
(下) クリスマスツリーに夢や目標を飾る選手

るクリスマスツリーには「チビリンピックで優勝して、プロのカーリング選手になる」などのメッセージが集まりました。

東北6県の銘柄米など 副賞を贈呈

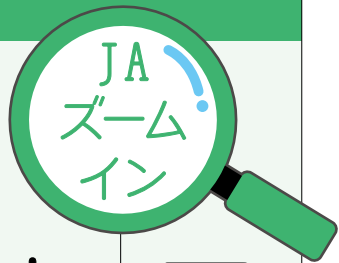
優勝から3位までのチームには、副賞として東北6県のお米(青森県産「青天の霹靂」、岩手県産「銀河のしずく」、秋田県産「あきたこまち」、宮城県産「だて正夢」、山形県産「雪若丸」、福島県産「天のつぶ」と神奈川県産「やまゆりポーク」を贈呈しました。また、全チームに参加賞として「インスタントごはん」や「農協ごはん」、包装餅などを渡しました。
全農はこれからも、将来

第6回 全農杯全日本小学生カーリング選手権大会試合結果

優勝	準優勝	3位
札幌CA (北海道)	チーム青森キッズ (青森)	チーム岡山・愛媛 (岡山・愛媛)
4位	5位	6位
盛岡カーリング スポーツ少年団(岩手)	軽井沢ジュニア (長野)	チーム愛知ジュニア (愛知)
7位	8位	
新潟ジュニア (新潟)	チーム東京 (東京・千葉)	



を担う子どもたちの健康を「ニッポンの食」を通じてサポートしていきます。



「シャインマスカット」を振興

産地育成し農家所得の向上へ

JA庄内みどりは山形県の北部に位置し、酒田市と遊佐町の1市1町で事業を展開しています。稲作を中心にメロン、パプリカなどの園芸品目、野菜、大豆、ソバなど多くの作物が生産されています。

園芸生産拡大支援事業 新設ハウスなど後押し

JAは2017年から新たに生産拡大を目指す園芸品目に対し、新設する園芸用

ハウスなどの費用を支援する「園芸生産拡大支援事業（現施設園芸生産拡大支援事業）」を開始し、ブドウ「シャインマスカット」の振興・産地育成に取り組んでいます。

水稲を基幹作物に持つ強みを生かし、水稲育苗用ハウスを活用した短梢栽培を推奨。JAは農家所得の向上を目指し、「シャインマスカット」の安定出荷に取り組んでおり、出荷・生産者数は年々右肩上がりが増加。今年は10割の出荷を計画しています。

ぶどう出荷組合を設立 技術研さん重ねる

21年には栽培技術の向上と組織出荷体制による共同販売事業を推進し、安定した農家経営を目指して「JA庄



ジベレリン処理・房作り講習会

内みどりぶどう出荷組合」を設立しました。同組合はジベレリン処理や仕上げ摘粒などの主要作業を学ぶ栽培講習会の開催や先進地視察研修、出荷目ぞろえ会、品評会の開催などで栽培技術の研さんを重ね、「庄内みどり」のブランド化を着実に進めています。

JA庄内みどり (山形県)



「選ばれる産地」目指し 輸出拡大、ブランド化

庄内みどり産「シャインマスカット」を広くアピールするため、東南アジアを中心とした輸出にも積極的に取り組んでおり、今後も国内外へのPR活動を進めます。また、消費者から選ばれる産地を目指し、①出荷組合全体の栽培技術のさらなる研さん②出荷先との関係強化③赤・黒系品種の導入—の

3本柱で有利販売とブランド化を目指し、「シャインマスカット」のさらなる振興・産地育成に取り組めます。



(右) 出荷目ぞろえ会
(左) 出荷組合で行う品評会

概要	2024年3月31日現在
正組合員数	9488人
准組合員数	4942人
職員数	510人
販売品取扱高	132億円
購買品取扱高	48億円
貯金残高	1210億円
長期共済保有高	3412億円
主な農畜産物	水稲、メロン、パプリカ、 「シャインマスカット」、アスパラガス



国内外へのPRに取り組む
庄内みどり産「シャインマスカット」

大阪府内でイチゴ栽培研修会を初開催

天敵農薬を用いた防除方法の習得がねらい



参加者は現地圃場でイチゴの生育状態を確認

大阪府本部は、12月11日にJA北河内管内の圃場(枚方市)でイチゴ栽培研修会を実施し、府内JAの営農担当者や大阪府職員ら27人が出席しました。

【大阪府本部】



技術指導員が「イチゴ栽培管理におけるポイント」について説明

近年、府内ではイチゴの栽培面積が拡大していますが、イチゴ栽培では高度な技術を要するため、JA職員の対応力強化を目的に研修会を実施しました。

研修会では、府本部の農薬技術指導員から「イチゴ栽培管理におけるポイント」として病害虫による被害の特徴・防除方法などの説明をはじめ、全農耕種資材部 西日本営農資材事業所の農薬課担当者から「イチゴハダニゼ

ロプロジェクト」などを紹介しました。実地研修では、圃場でイチゴの生育状態を調査しながら、病害虫発生や「バンカーシート」設置方法などの確認を行いました。

「NHK歳末たすけあい」に寄付



(左から)東京都共同募金会の枝見太郎常務理事、全農の折原敬一会長、NHKの稲葉延雄会長

全農は12月23日、東京都渋谷区のNHK放送センターで「NHK歳末たすけあい」の贈呈式を行い、東京都共同募金会へ募金額150万496円を贈りました。【広報・調査部】

都府県本部の募金と合わせて
総額 **321万円**

社会貢献活動の一環としてイベントの売上金などを毎年寄付しています。各都府県本部では直営店舗・職場・事業所などで共同募金箱を設置し、募金活動を行っています。都府県本部における募金の総額は171万3607円(12月23日時点)で、合わせて約321万円になります。募金は共同募金会を通じて、国内の福祉施設や支援を必要とする方々のために役立てられます。

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

いいものいっぱい広場

JA茨城旭村のサツマイモ「旭甘十郎」です。「旭甘十郎」は栽培、収穫、貯蔵、出荷の面で、さまざまな研究と実験を繰り返して完成したJAオリジナルブランドです。

品種は、ねっとりとした食感で人気の「紅はるか」で、収穫したサツマイモは、でんぷん量の多いものを厳選し、1カ月以上熟成させます。これにより、サツマイモのでんぷん質がゆっくりと糖に変わるため、甘くておいしいサツマイモになります。

JA茨城旭村こだわりのサツマイモ「旭甘十郎」をぜひ味わってみてください。



JA茨城旭村 旭甘十郎(紅はるか)
MまたはLサイズ 約5kg...4480円(税込み)
※1月中旬ごろより順次発送

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com